

事務局（上田）	<p>定刻となりましたので、平成 29 年度第 1 回菊池市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>まず、市長に挨拶をお願いします。</p>
江頭市長	<p>こんにちは</p> <p>たいへんお忙しいなか、お時間を割いてくださいますありがとうございます。</p> <p>今日の菊池市総合教育会議は、平成 27 年に法律の改正により設置が義務づけられた会議でございます。近年の教育行政において、福祉ですとか地域振興など、市長の権限に属する事項と教育問題が密接に関係し、連携が必要となってきたということが背景でございます。</p> <p>また、教育行政をやる上で特に予算との関係性が非常に重要になってまいりますので、齟齬をきたさないように意見交換をしようという場でございます。そういう意味では、市長と教育委員会が菊池市の教育行政の大綱であるとか、重点的に論ずべき施策について協議・調整をする場でありまして、基本的な課題とか方向性を共有するというのが目的でございます。そういう意味で多くのご意見を頂戴してまいりたいと思っておりますのでご協力よろしくをお願いします。</p>
事務局（上田）	<p>ありがとうございました。</p> <p>（事務局紹介 市長公室・教育委員会）</p> <p>それでは議題に移らせていただきますけれども、議長につきましては菊池市総合会議運営要綱第 4 条におきまして、市長が議長となるとなっておりますので、江頭市長をお願いいたします。</p>
議長（市長）	<p>議事に入ります前に皆様にお諮りしたい件がございますので、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局（上田）	<p>それでは、会議の内容について説明させていただきます。この会議は要綱の第 6 条によりまして、会議の公開となっております。公開した後は会議録をホームページ等で公開するということをお諮りいただくことと、第 7 条に傍聴が出来るということになっておりますので、本日は今のところ傍聴者はおりませんが、傍聴者がいれば、傍聴が可能ということをお諮りしていただきたいということと、この会議についての議事録ですが、この議事録署名を、教育委員の生田博隆様をお願いしたいと思います。会議公開と傍聴について議長から宜しくをお願いいたします。</p>

<p>議長（市長）</p>	<p>事務局より説明が終わりました。 ご質問はありませんか。</p> <p>・・・【質疑なし】・・・</p> <p>無いようですのでお諮りします。</p> <p>はじめに、本会議は公開とすることによりよろしいでしょうか。</p> <p>・・・【委員承認】・・・</p> <p>本会議は公表することとしまして、作成方法は全文筆記ということにさせていただきます。</p> <p>また、発言者の氏名は非公表で会議録を作成し、皆様にご確認いただいた後、市のホームページへ掲載するということによりよろしいですか。</p> <p>・・・【委員承認】・・・</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>また、今のところ傍聴の希望はございませんので、皆様には一応お伝えしておきます。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>議事3の（1）菊池市総合教育会議の運営について説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（上田）</p>	<p>市長公室から説明させていただきます。資料は、菊池市総合会議運営要綱の第1条でございますが、先ほど市長の挨拶でありましたように、地方教育行政組織及び運営に関する法律が一部改正されまして設置が義務づけられております菊池市の総合教育会議は、市長、教育委員の皆様でご審議いただき、平成27年10月19日に設置しております。</p> <p>また、第2条に定めておりますこの会議では、1番目に大綱の策定に関する事項、2番目の教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずるべき施策、また、3番目としまして、児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置ということで協議及び調整を行うようになっております。</p> <p>その中でも、1にあります大綱につきましては、法律により必ず策定しなければならないとなっておりますが、教育振興基本計画の中で目標や施策の根本となる方針の部分が、大綱に該当すると位置付けられることができれば、大綱を策定する必要はないとあります。そうしたことから本市では前回の平成27年度の会議で、大綱を策定するか協議していただきましたところ、目標や施策となる根本となる方針の部分が大綱に該当するというので教育振興基本計画を大綱に変えるものと決定がなされております。</p> <p>今回お集まりいただきましたのは、具体的に協議をお願いする議題を用意したものではありませんが、前回の会議より2年が経過し、交代されました教育委員さんもいらっしゃるということから開催をしたものであります。また、大綱が変わる</p>

<p>議長（市長）</p>	<p>教育振興基本計画で第2期計画になりますけれども、これがちょうど5ヵ年計画の中間の3年目を迎えておりまして、その状況についてもご説明をし、ご意見を伺いたいと存じております。</p> <p>以上、総合教育会議についての説明を終わります。</p>
<p>議長（市長）</p>	<p>以上のことで何かご質問等はございませんか。</p> <p>・・・【質疑なし】・・・</p>
<p>議長（市長）</p>	<p>それでは議事の2番目でございますが、教育振興基本計画の取組状況について説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（清田）</p>	<p>資料1で概要を説明させていただきます。長期的なことでございますけれども、資料については菊池市教育振興基本計画ということで平成22年から平成31年までの10年間の計画がございます。10年の前期、平成22年から平成26年までの5年間の計画とされております。平成27年から31年までの5年間の計画ということで具体的なところは掲載しておりますけれども、この一部を今回この資料に載せておりますので、ご説明させていただきたいと思っております。</p>
<p>事務局（清田）</p>	<p>【資料1 菊池市教育振興基本計画 第2期計画 概要説明】</p>
<p>議長（市長）</p>	<p>説明が終わりました。ご質問やご意見はございませんか？</p>
<p>委員【松岡委員長】</p>	<p>総合教育会議がこのような形で新しい制度に移行しながら変わっていくという事は1つの時代の変化であるわけだと思っております。ただし、教育委員さんも一緒になって今、この取組みをやっていただきますが、これを感じるのはいよいよ学校訪問等をさせていただいて、特にその中で、いじめ、不登校の問題が増加傾向にあるというのが非常に気になります。これだけ一生懸命学校現場でもそれからこれだけ基本計画にうたわれているながら、何かをやはりしていかないといじめ、不登校の問題はなかなか解消できないのではないかと感じております。全てが評価に判定して値するものでもないと思います。特に今説明がありました資料1の第1章の下の方に「生きる力」というのがあります。この生きる力という事はどういうことなのかという風に自問自答していきますと、やはり、生きていけばいいのかなと思うのが反面と何か自分の将来のビジョンとか夢とかをこういう事を思った時がはじめて生きる力に変わるのではないかとということも感じるところであります。で、この菊池市の教育振興基本計画の中に素晴らしい文章が沢山書いてありまして、ただ、その中から菊池市はこういうような基本計画の中でこれだけは光るものにしたいという風な。何かひとつを目標にしてですね、そしてそこの中に特化していくような動き方をしていったほうがいいのかな</p>

と。こういうところを痛切に感じるところであります。

それは最大のものというのは、何はさておいて、昔もありましたいじめ、不登校の問題です。しかし、このいじめ、不登校の中で課題が山積するものをひとつ、ひとつ、違った角度から解決出来るような、対話とか意見交換、そういう事の中から保護者とも今までもいろんな角度から、特にP T Aの協議会等でも検討されていると思いますが、なかなかこれは一朝一夕に解決できるようなものでは多分ないと思います。

教育委員の現場においても、教育委員一丸となって学校現場の中でも通常の会議とは別に、学校の校長先生達とひざを交えて、垣根を越えて話すような活動も今行っております。

この活動も表には見えない部分と経営者として考えられる校長先生の立場を考えてみますと、なるほどなと思うこともいろいろ発見することも出来ます。こういう事を緻密に出来ることから始めていければと思っています。総合教育会議に変わって、市長を筆頭にまたいろんな活動について、意見交換出来ることは大変楽しみにしています。以上です。

議長（市長）

貴重なご意見ありがとうございました。他に何かご質問、ご意見等ございましたか？

委員【生田委員】

先ほど、いじめ、不登校に関する話がありまして、学校との対話、独自の対話というのも委員長の発案で始めたところではありますが、やはり、いじめ、不登校の問題というのは今の世の中でどこでも課題となっていることかな思うんですが、そういう意味でも毎月の教育委員会会議の中でも月々のいじめ、不登校、不登校傾向といった報告を聞かされます。非常にきちんとまとめられた報告をいただいているんですが、その中で思うに今日の総合計画の中で生きる力の項目がありますが、その中でも保護者や地域、家庭との連携といった言葉が沢山出てきます。

このいじめ、不登校というのは、学校だけ、或いは行政だけ、教育委員会だけではどうしようも出来ないところがあるのかなと。やはり、地域、家庭、学校との連携。これをやはり地道に積み重ねる必要があるのかと。

これは言うのは簡単ですが、相当大変だろうと。特に家庭そのものが昔よりもそれぞれ独立しているといいますか、繋がりが薄くなっていたり、自分の主張が、周りよりも自分という雰囲気強い方もいますので、なかなか地域で自分の子どもたちや、地域の子ども、あるいは菊池市の子ども、というような形で地域を見れないような社会情勢もあるのかなと。そういう中で地域との連携をはかるというのはなかなか大変だと思うんですけども、P T Aとか先ほどのコミュニティスクールでたまたま菊池の場合はいくつか先行しているところもありますが、学校教育会議とかそういった場を借りてもですね、少しずつそういうことを地域に浸透していくような取組みが必要じゃないのかなという風に痛感しております。

ますます先生方は働き方改革で、いろんな時間の制約もある中で、また、新しい学習指導要領で、それに取組む準備も必要になってくる。益々忙しい中でそういう地域との繋がりが大切となってきますけれども、何かそういうので皆さん知恵を出し合いながらですね、そういう周りと一緒にやっていけるような事が出来たらいいなと思っております。

まさに総合計画（資料2 3ページ）の中で、市長部局の子育て支援課とか児童相談所という言葉も出ましたけれども、そういった所。あるいは民生児童委員の人たちとの連携とかですね、いろんな手立てはあるんじゃないかなという気はします。そういうのを地道に取組んでいかないと、なかなかこういう問題は小さくなるとか落ち着き始めるというのは難しいのかなと思っております。

いじめについては、一個、一個、何かあるとマスコミに騒がれたりしますので、学校サイドなどで教育委員会としても非常に神経を過敏にされてると思いますが、ここで過敏になり過ぎると内にももってしまうといいますか、うちのクラスでは、あるいは学校ではいじめなんかあっていないという方向になるとですね、いじめがある事自体を押さえこんでしまうような雰囲気をつくってしまうと、最後に大きな問題になって出てしまうという所もあると思うので、先生方もいじめはあってはいけない事ですが、防止策はとらないといけないですが、いじめがあったら全体ですぐ対応する事が出来るような雰囲気づくりが必要じゃないかなと思ってます。

福井の例の自殺した生徒がいても、担任と副担任2人が関わっているなかにも関わらず、ああいう問題にもなってしまうという。やはり、本当に学校全体の問題となっていたのか、詳しいことは報道でしか分かりませんが、周りがいじめを押さえ込むというか、いじめの話題を出さないような風潮がないように、学校の先生の例えば評価とか、そういう事があったから評価が落ちるとかですね、そういう事がないような、オープンな中でいじめに対応出来るような雰囲気作りと言いますか、そういうのが必要ではないのかなと、最近、7月以降、こういう委員をやらせていただいてですね、少しずつ感じているところであります。以上です。

議長（市長）

はい。ありがとうございました。

委員【松岡委員長】

先ほどの補足でもう一点だけ。先月の委員会です、課題がいっぱいある中で特にいじめ、不登校の問題について事務局にお願い申し上げたのは、いじめ、不登校についてだけではないのですが、いじめ、不登校という事をとれば、全国津々浦々の中でですね、悩んで解決された時のその手法をお持ちのところですね、そこと交流をさせていただいて、また、こちらにおいでいただいて、我々も行って、勉強をさせていただくというか。何かその一步前に入る手法を取らないというかですね、空論に終わってしまうもったいないので。

恐らく、推測ですが、これから先いじめ、不登校の問題というのはこれからもつ

と大きな課題になってくる予感がします。だから、そうならないが為に菊池は一歩早く、そしてやれるところから、大きくじゃなくて小さくやれるところからまずやってみるという事が大事ではないかと思えます以上です。

議長（市長）

はい。ありがとうございました。

委員【森委員】

私は学校現場から逆に立場が変わって教育委員にさせていただいていますけれども、やはり一般の方から見ると、先ほどのいじめ、不登校にしても、学力にしても学校が頑張れという事を非常に叱咤激励をさせていただいているんですけども、現場からすると本当に先生達は今、頑張っているなあという事をしっかり思って、学校訪問とか行ってもしっかり先生方を応援してあげたいとそういう気持ちでおります。その中でやはりいじめ、不登校のことが挙がりましたけれども、それは学校だけが助けようと思っても中々出来ない、その中で家庭の考え方がかなり以前と違って、子どもを学校に出さなければいけないのか、子どもの言い分を聞いて、子どもサイドに立って、行かなくてもいいような事を言われたりします。子ども・家庭と学校との繋がりが薄れており、学校のほうは一生懸命やっても、それがうまく繋がらないのです。

いろいろご家庭の価値観の違いもあるかと思えます。だからやはり学校と家庭だけでは難しいです。やはりそこにいろいろ子育て支援課とかそういう行政からも入っていただいて、そういう方からも話とかを繋げていければ、さらに家庭も心を開いてもらえるかなと思えます。学校だけでは難しいことをいくつか私も経験してきましたので、やはりそういう専門機関等で更に支援していただけたらなと思っているところです。

それから、学習力の面では菊池市はICTとかそういう機器が導入していただきましたので、学校としては大変有難く思っております。ただ、中々それが成果として表れないというのが今の厳しい現状ですけれども、確実に、特に学力が厳しい子ども達には学習意欲を高めてきているということは、それだけ効果が出てきていると思えます。山江村とか非常に学力が上がったと先日の新聞にも載っておりますけれども、やはり菊池の先生方の技術とかさらにそういう研修を重ねてしっかり使っていける環境を作っていけば、必ずや全体の成果としては上がってくるということで期待しているところです。

議長（市長）

はい。ありがとうございます。

委員【芹川委員】

私も毎回の会議の中で、いじめ、不登校の報告を受けておまして、委員長からも具体的にどのような事が出来るのかという事でお話がありましたので、私なりに考えているところですけども、やはり子ども達自身の自分の役割はこれなんだとか自己有用感が上がりますと、子ども達は本当に目の輝きが違ってくるの

ではないかと考えます。先ほどおっしゃられたように今、ICTで学校も取組んでおられますけれども、子ども達自身のICT、例えば自分たちでもいろいろとできるようなプログラムや講座とかですね。そういうことを開催していただくとかですね。子ども達が夢中になって一つでも楽しい事があると、学校に行くのがとてもうれしくなると思います。本当にコミュニケーションが苦手な子も沢山いると思いますし、いろんな特性を持った子ども達がいらっしやると思うので、いろんな引き出しを作っておくと、子どもたちの興味、関心が広がると思います。色んなチャンスをたくさんあげれば、例えばクラブ活動を通してとか、昼休みもそういうちょっとした取組みが出来るような提案をさせていただけるような機会があったりですとか。また、町の自主文化事業のようなもので様々なプログラムを用意していただけるというのも、もしかしたら子ども達のニーズに沿えるような窓口になれるのではないのかと思います。先日新聞の記事に元気に寸劇という記事が出ておりましたけれど、少規模校に劇団の方たちが寸劇やダンスを通して子ども達の表現力を向上させようという出前講座のような記事が目にとまりました。

想像力は生きる武器になるという言葉もありました。子ども達が日ごろなかなか自分の表現が出来ない子ども達もどのように表現したらいいかというプロの劇団員の方達の劇を観て、触発されていったとか、ダンスとか動きを通して子ども達が自分を表現する喜びとか、友達が表現しているのを見て心が動かされるような場面があったりすると、日頃とは違ったような機会が広がれば子どもたちの興味が様々なところで何かが目覚めるような。特に新学習指導要領では生きる力や発信力というのがキーワードになっていると思いますので、自分を表現して何かを発信して伝えたいというのが子ども達の育成に繋がればと思い、記事を見たところです。

もう1つはグローバル人材という事で英語の事も出ておりましたけれども、英語におきましては、英語でおもてなしという事で熊本市あたりでは熊本城とか水前寺公園の観光ガイドを英語でされる活動がされているようで、それも小学生が子どもガイド養成講座という小学生向けのプログラム活動も開かれているようです。なので、菊池市も素晴らしい文化財と自然がありますので、それを英語で、中学生、高校生は自分たちで出来るかもしれませんし、またそのようなたたき台が出来れば、小学生も楽しく英語を学習できるのではないかと思います。自分達の住む菊池の自然や文化を他の方に英語を紹介したり、例えば姉妹都市の村所小（宮崎県西米良村）との子ども達との交流会もありますので、今回は英語で発表し、伝えますという事ですね、英語で子ども達が発表する機会や日本語でも構いませんけれども、日本語でも自分達の豊かな自然と文化を発信していこうという講座とかがあれば子ども達の目が輝けるような企画になると思っています。以上です。

議長（市長）

はい。ありがとうございました。

委員【江藤委員】

今日は市長もいらっしゃってますし、少し話が範疇外になるかもしれないです。文教菊池の確立に向けてという事で素晴らしい理念が謳ってありまして、文武両道、羞恥礼節、論語教育というものも現在行われておりますが、木原先生をはじめとする菊池教育会の大きなバックアップ、応援団があるかなという事で大変心強く思っております。素晴らしい教育理念・教育方針を掲げていらっしゃるので、こういうところは非常に私も心強く、楽しみにしております。ただ、現実問題として非常に少子化が進んでおります。少子化を解決するには大きな話になってしまいますので、範疇外になってしまうのですが、若者の定着や永住という事を考えますと、生活の糧となりますようなまちづくり、仕事場、職場の確立も必要ではないかという考えを持っております。

泗水田島工業団地が完売したという事ですので、少しは明るくなっておりますけれども、まずそこらへんの環境づくりが大切なかなと思っております。

それから菊池大好き人間をつくりたいという事でキャリア教育やコミュニティー教育なども取入れられつつあるんですけども、こちらに書いてありますように伝統文化芸能を継承していくということ。出来れば若者達にですね。そういうこととか、今、おっしゃいました名所・旧跡・文化財を知っていただいて、これを観光に活かさないかなということで、こういうことに協力してくれる若者達を育てる事も大事かなと思います。豊かな菊池の自然もありますので、出来ればそこらへんを活かして観光をアピールしていただきまして、商業の発展とか農業のブランド化、付加価値をつけた農産物を販売するとか。そういうところの気概を持ったような菊池大好きな若者が増えてくれたら一歩、一歩、前進していけるのではないかなと思っております。

それから先ほども紹介がありましたけれども、奨学金のほうも有効利用していただけたら大変有難いと思います。母子家庭、父子家庭もありますので、そこらへんの支援も考えた上で高校や大学に進学出来る子ども達に有意義な奨学資金制度が出来たらいいなと思っております。私も制度のほうはあまり知らずに言っております。小川基金等もあるそうですので、何か有効利用が出来たらいいのではないかなあと思っております。ちょっと突拍子もない話になりますけれども、委員達ともお話いたしましたけれども、高校で大学進学出来るようなクラスを作って、そこに助成金を少し出すとか。菊池農業高校の馬術とかサッカーとかこの前は良かったそうですけれども。馬術で日本一になられてますし、菊池高校は今、野球が強くなって、菊池女子高校も剣道やいろんなイベントで千本槍などで協力をしていただいております。そういった3高校に対しても定員割れをしないような方法がないかなと思います。そこらへんで意見があれば、是非お聞きしたいなと考えております。で、仮に大学進学したとしても菊池に戻ってくるような人が増えるような、或いは就職できるような故郷にリターンできるような場所をこれ

<p>議長（市長）</p>	<p>から整えていく必要があるんじゃないかなと考えております。これは教育委員だけではなく、他の部署との連携が必要になってくるんじゃないかなと感じております。</p> <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>ほかに何かご意見がありましたらどうぞ。</p>
<p>委員【<u>教育長</u>】</p>	<p>実は昨日、県の教育事務所のほうから社会教育主事がきまして、ちょっといい話を聞いたのですが、今まで学校は子ども達に力をつける為にゲストティーチャーとかいろいろよそから呼んで、学校応援団でどんどん入って貰って学力をつけたりしていました。そういう取組みは、ひよっとするとふるさとを捨てる子ども達をつくっているんじゃないかと。それによって学力をつけて、東京等の大学へ行って、そこで就職をして、結局は地元に残らない子ども達を今までつくってきたんじゃないかと。</p> <p>これからは地域学校協働活動。地域学校協働本部という形ですね、いろんな団体、老人会であったり、民生委員の会であったり、企業であったりいろんなところがひとつになってですね、そして学校と双方向で行き来するといいますか。例えば、どこかの地域が祭りをするとした時に中学生にその祭りのアイデアを出させる。山鹿あたりではこの祭りの一環としてマラソン大会を企画したいと。企画から運営まで全て中学生が考えて、それに必要な部分を地域の人が協力して、やり遂げてからみんなで手を繋いでやった一と。例えば鹿北ばんざーいとか言って、みんなでばんざーいとやると地域との一体感が生まれて、やはり地元はいいなという思いが中学生に育ってきて、地元の他にいいところはないだろうかというそういういい面も育ちつつあるとかですね。</p> <p>結局、この地域に生まれ育って、この地域が今どういう状況下にあるのか。それを活性化させるためには自分達は何が出来るのかとかいうのを総合的な学習あたりで出かけて行って、そこで双方向の交流をしながらやっっていけば、出て行ってしまふ子どもたちばかりをつくることにはならないんじゃないかなということ、平成32年から地域学校協働本部、地域学校協働活動というのが今度文科相から出されてきます。そんな取組みをやったらいいな。実際に菊池北小学校はそういう取組みをやっってきております。そういう事を菊池全体に広げていければいいなという思いが一つあります。</p> <p>それから自己有用感を持たせるということを委員が言われましたけど、不登校で教室に入れなく、保健室登校をしていた子ども達を私が隈府小学校時代に、私は土づくりが大好きでしたので、ひとりでするよりもその子たちを連れてリアカーを3台持って行って、土ふるいをする、それに腐葉土などを混ぜて、さくら草をポットに入れて植えたりする取組みをやっかけておりました。そんな時にいろいろな話をしながら、これ、折角作ったから軽トラ朝市に持って出しに行ってみよう</p>

か？と生徒に話すと乗り気になってくれまして、リアカーで土曜日に積んで、最初の日曜日に8:00から行くんですけども、最初は不登校で人と関わる事が苦手な子たちですから、人が沢山通るような所だと、下を向いて、商売に行っているのにいらっしやいませの声もかけきれませんでした。それで、もじもじしており、お客さんが寄って来て、これはどんな花ですか？と尋ねると、生徒が写真を見せてると、お客さんがじゃあふたつ頂戴と言われると、赤がいいですか、白がいいですか？と聞いて、花もまだ咲いていないので、当然お客さんのほうは何で分かるのかな？と思うんです。その時に株の根元を見ると、色がついているのがピンクの花です。色がついてないのが白い花ですと、細かく説明をするのですよ。そうすると、お客さんがへえー、凄いいね、そういう事も知っているんだと久留米から来られたお客さんのたったその一言でごろっと変わって、そこから先が一輪車で学校に取りに行行って、積んで、上町から下町まで走り回って、売って回るようになったんですよ。ですから、やはり地域の人たちの声かけ。久留米から来られたお客さんから褒められたその一言で、子ども達は自己有用感、自尊感情が芽生えてきて、それからの売り方が変わっていきました。

そして、暫くしてその子どもたちは教室に戻っていきました。そんな取組みあたりも地域のおかげで不登校解消のきっかけとなりました。そういう取組みを地道にやっていくのが一番大事なのではないかという想いがします。

議長（市長）

はい。どうぞ。

委員【松岡委員長】

私から、少しテーマを変えて。やはり時代の背景によるものかどうか分かりませんが、気になっている事があるのが、移住という言葉はよくお聞きになると思いますが、全国から菊池が好きで移り住まれてる方々の問題。お子さんも連れて、自分の住みたい場所にお住みになって、お子さんを学校にやらなくてもいいと。自分たちで育てるからという事が、法整備はまだ出来ていないと。このこと自体はこれだけの社会になってきますと、どこかで何かの処置がなされないと、大変な事になるのかなというのがあります。

でも、それを敢えて強制してしたいという事よりも、そういう認識を持った。保護者さんがどういう心理でそういう事を考えられておられるのか。という事を課題としながらですね、何か対策を打つのではなく、何かをそこから発見していかないといけないような時代になってきているかもしれないと思います。

保護者の考え、一方的な考え方の狭い中で自分が教育するからいいという考え方と先ほど教育長の話にありましたように、やはり開けた中での感動ですよね。本当に人間というのはちょっとしたきっかけ、1つの言葉で人間というのは変わるのでよね。そこが親子ではなかなか出来ないものかもしれません。他人の中での荒波を越えてですね、そこに1つの試練を得て、そして自分が発見していく事だと思えます。先ほどの教育長の話にありました、感動したお客様が伝えられた

議長（市長）	<p>言葉からですね、いや、むしろこれを将来の仕事にしたいと。もし気づいたらですね、凄い世界が流れると思います。そこが1番、教育のあるべき原点だと思います。また、何かのきっかけになればと思います。以上です。</p>
委員【 <u>芹川委員</u> 】	<p>はい。ありがとうございました。 ほかに何かありませんか。</p>
事務局（清田）	<p>質問よろしいですか。資料1、14ページの1ヶ月の本の貸し出し冊数が減っているのは、学校の図書館での貸し出し数ですか？それとも図書室が閉館だった時期を含めてのこの数字の減少になっているのでしょうか？</p>
議長（市長）	<p>これについてはですね、これは年間しか出てきておりませんから、年間を12で割ったものを一月（ひとつき）というところで算出しておりますので、若干、先ほど申しましたように28年度は熊本地震がありました関係で、少ない数字になっております。</p> <p>これについてはですね、これは年間しか出てきておりませんから、年間を12で割ったものを一月（ひとつき）というところで算出しておりますので、若干、先ほど申しましたように28年度は熊本地震がありました関係で、少ない数字になっております。</p> <p>その他何かご意見等ありますでしょうか？</p> <p>本日は大変貴重なご意見をいただきまして、委員からいくつか重要なテーマに集中していく必要があるだろうという切り口の中で、いじめ、不登校の問題がありまして、皆さん様にこれに対して大変重要なことだとお感じになっていることは良く伝わりました。それから委員のほうから出てきた言葉で、私の個人的な思いとしてはですね、やはり様々な体験、様々な感動をですね、どんどんもっと増やしていかなければいかんと思っておりますですね、どうしてもゲームなんか遊び相手になってくると人との触れ合いとかですね、そういうものが希薄になっているだろうし、やはり、ケンカも含めていろんな自然とか、遊びとか、友達関係などからいろんなものを学んでいくんじゃないかと思っておりました。その中には地域の大人から叱られる部分もあるだろうし、そこら辺がちょっと希薄な感じになっているのかなあと、自分達の子どもの時代と比べると、まあ比較するものがそれくらいしかないものですから狭い比較で恐縮ですけれども、そういう気がしております。</p> <p>で、先ほど新しい動きとして、地域学校協働本部というのが出てきたという事で、僕は今、プラスとマイナスの面の両方を感じてましてですね、1つは人材育成に地域全体で関わるという事はこれはものすごく大事な事だと。今、申し上げた多様性というか、体験の多様性とか視点とかを入れる意味で非常に大事な事だと思うのが1つと。2つ目には僕はむしろ地域の人に一回外に出て欲しいと思うんですね。ずっとここで育った場合に了見が狭くなるという言葉がありますけれどもね、広い視野を持った上でもう1度ふるさとを見直すとだいぶ違うんじゃないかという気がしまして、毎年何百人かいるわけですから。それをずっと手元に留</p>

めておくというのは物理的にかなり難しいことだろうと思っています。
ただ、巣立った後で例えば、30～40代になって改めてふるさとを再発見をしてですね、新たな視点、経験を持ち込む人もいるだろうし、ふるさと納税で応援したいという人もいるだろうし、いろいろな人に広めてくれるのも応援もあるだろうし、大事なのは様々な視点を持った人材がいるという。僕はいつも多様性というのを非常に重要だと思っているんですよ。

やはり森にしたって、何にしたって、多様な森のほうが強いですもんね。そんな気がしました。もう1つは、これは皆さんの意見と一致しますが、自然との関わりとかですね、その中での感動体験というのは非常に大事だろうなあという気がしますね。小さい時は自然が自分を育てるとか、自然のありがたみとかは実は分かってはいないのですよ。都会に出ていろんな経験をすることでだんだんとその中で自分達が自然を征服しながらやっているつもりが、実はお釈迦様の手の上でちょこちょこしているだけで、やはり大きな恵みの中で生きている事を感じる事でこれが感謝の心とか、何か恩返ししたいとかに繋がる。そういうタネを残していくというかですね、そういうものが教育の一つの役割かなと素人ながらに感じました。雑感ですけども、今日の議論を通じて私はそういう事を感じました。

他何かありませんか？

(質疑無し)

それでは、本日は長時間におきまして貴重なお話しをさせていただき、ありがとうございました。では、改めまして来年度にまた開催させていただきたいと思っております。

菊池市総合教育会議運営要綱第12条によりここに署名する。

教育委員 生 田 博 隆